

早稲田大学・科研バックエンド問題研究会
「可逆性アプローチによる高レベル放射性廃棄物(HLW)管理政策と世代間公平性」
第13回ワークショップ

バックエンド問題と世代間公平性を考える

主催: 早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

後援: 早稲田大学アジア太平洋研究センター(WIAPS)、早稲田大学環境総合研究センター(WERI)

1. 趣旨

高レベル放射性廃棄物 (High-Level Radioactive Waste: HLW) とは、日本では一般に、原子力発電所から出る使用済核燃料 (Spent Nuclear Fuel: SNF) の再処理工程で発生する高レベル放射性廃液およびそれを安定的な形態にするために固化したガラス固化体をいう。しかし、こうした高レベル放射性廃棄物の最終処分方法や処分地選定プロセスをめぐる問題は社会的合意形成が困難な問題である。

高レベル放射性廃棄物 (HLW) の地層処分政策に対する社会的合意形成が困難な要因の一つは、現在世代と将来世代との間におけるリスク負担と政策選択権の配分をどのようにすることが公平 (公正) なのかという、世代間公平性問題 (PIP: Pure Intergenerational Problem) の解が一義的でないことである。

本研究「可逆性アプローチによる高レベル放射性廃棄物 (HLW) 管理政策と世代間公平性」は、1990年代以降、国際社会において活発に議論されている HLW 管理政策における可逆性 (Reversibility) アプローチの研究が、世代間公平性問題の解への「導きの糸」になるとの仮説に立脚する。日本、フランス、イギリス、ドイツ、アメリカの HLW 管理政策における可逆性アプローチの研究動向を詳細に調査研究するとともに、異なる立場の専門家 (知の三角測量) と多世代の市民を包摂した熟議の「場」を形成し、可逆性アプローチによる2つの世代間公平性原理の統合の可能性を検討する。

本ワークショップでは、バックエンド問題への社会的アプローチの基本的視点を検討するため、様々な専門分野の研究者のお話を伺ってきた。今回は、哲学・倫理学が専門の中央大学理工学部・寺本剛准教授をお招きし、研究会メンバーなどとの討論・議論を通じて、バックエンド問題と世代間公平性について考えたいと思う。

なお、本ワークショップは科学研究費補助金・基盤研究 (B) (19H04342) 「可逆性アプローチによる高レベル放射性廃棄物 (HLW) 管理政策と世代間公平性」 (研究代表者: 松岡俊二、2019年度~2021年度) に基づくものである。

2. 日時・会場

日時: 2019年7月19日 (金) 18:00~20:00

会場: 早稲田大学 (早稲田キャンパス) 19号館7階710教室

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

3. 内容

司会: 松岡俊二 (早稲田大学院アジア太平洋研究科・教授)

報告: 寺本 剛 (中央大学理工学部・准教授)

「バックエンド問題と世代間公平性を考える」

討論: 松本礼史 (日本大学生物資源科学部・教授)

竹内真司 (日本大学文理学部・教授)

寿楽浩太 (東京電機大学工学部・准教授)

4. 申込先: 会場設定などの関係上、参加を希望される方はメールで事前連絡ください

【宛先】 jyuten-fukkou※list.waseda.jp (※を@ (半角) にして送信ください)

【件名】 7/19 WS 参加申込

【内容】 1. 氏名 (フリガナ) 2. ご所属 3. メールアドレス

5. 連絡先

早稲田大学レジリエンス研究所事務局: jyuten-fukkou※list.waseda.jp (※を@ (半角) にして)